

帰るべき場所で働く幸福

まほろ座
MACHIDA

まちだ人 キンモクセイ / ギター

佐々木良

どこか懐かしさを感じさせるサウンドで大ヒットした『二人のアカボシ』。紅白歌合戦の舞台にも立ったキンモクセイのギタリストは今、地元の町田でアーティストを支える活動に力を注いでいる。

サッカーの日韓ワールドカップに列島が沸いた2002年大晦日。佐々木良さんは「キンモクセイ」のメンバーとしてNHKホールにいた。言わずもがな、紅白歌合戦の舞台だ。

1998年のバンド結成から3年でメジャーデビューを果たすと、3カ月後にはオリコンヒットチャートのベスト10入り。「無知ゆえの自信」に満ちあふれ、トップアーティストへの階段をトントン拍子で駆け上がった。

とはいえ、紅白は別次元の話。「目標にすらしていないレベル」だったが、デビューから1年で名誉ある歌番組へ出演を果たしたのだ。「どんな状況で出場決定を聞かされ、どうやって親に報告したのか。全然覚えていないんです」

出身は木曽東。ギターとの出会いは、忠生第三小学校、町田第三中学校を経て山崎高校に入学してすぐのこと。たまたま後ろの席に座っていたクラスメイトがバンドを組んでいるのを知ると、弾き方の教えを乞うべく家にまで押しかけていった。

「目立ちたかったんだろうな」ギターをかき鳴らして黄色い声

を浴びたいという願望は、思春期の男子ならばごく自然なこと。近い将来にメジャーデビューする実力を秘めた男子高校生も、始めたきっかけはありふれたものだった。

その後、友人とバンドを結成。文化祭のステージでは思惑通りに「キヤーキヤ」と声援を浴びた。「バンドって楽しいし、やっぱり注目される」。将来はミュージシャンになれると信じ、卒業後に高田馬場の音楽専門学校へ進んだ。

ここでつるんだのは、地元が近い友人たち。「育った街の空気感が似ているせいかノリがあつて」



『二人のアカボシ』が大ヒットした2002年(右から2人目が佐々木さん)



今年9月、まほろ座で無観客配信ライブを開催



10年以上の休止期間を経て一昨年に再結成。町田駅前で宣材写真を撮影した(右端が佐々木さん)

佐々木 良 Ryo Sasaki

1976年4月12日生まれ(44歳)。山崎高校在学中にギターを始め、専門学校の仲間と組んだバンド『キンモクセイ』のギタリストとしてメジャーデビュー。代表曲の『二人のアカボシ』は発表から20年近く経った今も、根強い人気がある。

え、ある番組ではマライア・キャリーとも共演。「CGなんじやないのか」と目の前にある現実が信じられなかった。それもそのはず。つい数カ月前までは地元のスーパージョー三和でアルバイトとして働く「一般人」だったからだ。急激に変化した周囲の環境。だが、華やかな収録現場を後にし、小田急線にしばし揺られて町田駅に降り立つと、「俺の帰る場所だな」とホッとする自分がいた。

あれから約20年。現在は森野のエンターテインメントレストラン「まほろ座」に勤め、公演の企画や運営に携わるほか、後進の指導にあたる。「年齢を重ねるにつれ、地元を意識するようになった。今、町田でアーティストを支える仕事ができるのはすごく幸せです」

一方、キンモクセイは10年以上の休止を経て一昨年に再結成。「腕がなまらない程度にやっていけたら」という控えめな思いに反し、ネット上にはこの時を待ちわびたファンの喜びの声があふれる。花に派手さはなくても、漂わせる香りで存在を主張する「金木犀」。その名に由来した実力派バンドが、さりげなく活動を再開した。

その仲間たちこそ、後に結成されるキンモクセイのメンバーだ。

「ロック少年がタサイとする歌謡曲も切り取り方次第でカッコイ